

平成 31 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立御船が丘小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
H27 入学 現 5 年	67.1 (1.03)		68.7 (1.05)	
H26 入学 現 6 年	64.5 (0.97)	63.0 (0.98)	67.7 (0.96)	63.0 (0.95)
H31 正答率の全国比		(0.99)		(0.95)

- ◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。
- ◎ 上段は平均正答率、下段()は、県平均を 1 としての比較。
- ◎ 「H31 正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

《 生活習慣 》

「普段、1 日当たり 2 時間以上、テレビやビデオ・DVD を見ている」と回答している 5 年生児童は 48.1% (県 51.1%) であった。また、「普段、1 日当たり 1 時間以上、テレビゲームをする」と回答している 5 年生児童は 47.6% (県 50.5%) であった。

《 学習習慣 》

「学校の授業時間以外に、普段、1 日当たり 1 時間以上、勉強をしている」と回答した児童は、5 年生が 58.6% (県 58.5%)、6 年生が 65.1% (県 64.4%) であった。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たり 2 時間以上、勉強をしている」と回答した 5 年生児童は、25.0% (県 24.5%) であった。

家庭学習の内容を見ると、「自分で計画を立てて勉強している」という質問には、5 年生の 69.3% (県 66.5%)、6 年生の 58.4% (県 73.5%) が「している」(「どちらかといえばしている」を含む)と回答していた。

「学校の授業時間以外に、普段、1 日当たり 30 分以上、読書をしている」と回答した児童は、5 年生が 46.2% (県 45.9%)、6 年生が 38.2% (県 40.8%) であった。

「学校の授業の予習をしている」という質問には、5 年生の 46.1% (県 45.5%) が「している」(「どちらかといえばしている」を含む)と回答していた。

《 授業での学び方 》

学び方については、校内研究で取り組んでいる算数科に関連する質問事項を記述する。

「算数の勉強は好きだ」と回答した児童は、5 年生で 76.0% (県 67.5%)、6 年生で 52.6% (県 63.9%) であった。「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童が、5 年生 89.4% (県 84.2%)、6 年生 75.3% (県 83.4%) だった。

「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答した児童が、5 年生の 79.8% (県 82.7%)、6 年生の 75.3% (県 85.1%)、「算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童が、5 年生の 83.7% (県 88.1%)、6 年生の 86.5% (県 89.0%)、さらに、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した児童が、5 年生の 74.1% (県 75.6%)、6 年生の 67.4% (県 78.9%) であった。

《 学習状況調査の結果から 》

6 年生の国語では、全体の正答率は県とほぼ同じである。「相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認する質問をする」、「相手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」、

及び「ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる」が県の正答率より5ポイント以上低かった。算数では、「何倍かを読み取る」問題、及び「単位量当たり」の問題が県の正答率より5ポイント以上低かった。また、「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」問題の全体の正答率が低かった。

5年生の国語では、「話す・聞く」観点で県の正答率を下回っている。特に「理由を明確にして、話す内容を構成する」問題の正答率が低い。また、「叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える」問題の全体の正答率が低かった。算数では、全体の正答率は県を上回っていたが、「面積についての感覚を身につけている」、「示された情報を基に、具体的な根拠を挙げて説明する」問題の正答率が県よりも5ポイント以上低かった。

5・6年生ともに、「条件に合わせて文章を書くこと」を苦手とする傾向にある。国語では「話す・聞く」、算数では「数量関係」の領域に、やや課題が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 主体的な学びの育成

教材・教具の工夫をしたり、ICT機器を利活用したりすることで、児童の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。児童自身が学習内容を理解できているかどうかを明確にして授業に臨ませる。そのために、スマイル学習(動画)やプリント学習、教科書の音読などの予習学習を取り入れる。そうすることで、授業に対する学習意欲の向上や学習に主体的に取り組む態度の育成を図る。

2 数学的な見方・考え方の育成

算数科の授業では発展問題に取り組ませる。発展問題は、これまでに蓄積してきた問題を再検証したり、児童の実態に応じて作り変えたりしながら、より効果的に数学的な見方・考え方を働かせ、協働学習に取り組めるようにする。教師は、児童にどのような見方・考え方を身に付けさせたいかを明確にし、授業づくりをする。

3 表現力の育成

表現力を身に付けさせるために、言語活動を充実させる。まず、友だちの考えを最後まで聞くことや、分からないことを伝えることなどが確実にできるようにする。また、発表する際には、教科書に書かれている文章や資料、図などに立ち返らせ、根拠や理由を明確にし、正確な表現ができるようにしていく。的確に表現できた児童を賞賛したり、教師がモデルを示したりすることで表現するための技能を身に付けさせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 学力向上対策研修会の実施

県教育センターより講師を招き、県学習状況調査の結果についての誤答傾向の把握・分析・考察を行い、本校の課題を明確にした。各学年が今後の取組を決定し、改善策について全職員で共通理解を図った。定期的に振り返りをしながら、児童の学力向上や職員の指導法改善・充実に努めていく。

2 学級づくりの充実に向けての取組

月曜日の朝の特設の時間(学級タイム)に、グループエンカウンターの要素をもつミニゲームなどを行い、学級への所属感や安心感を高めていく。また、県教育センターより講師を招いてQ-Uの結果分析を行った。協働的な学習が活性化するように、今後の学級づくりに生かしていく。

3 読書活動の推進

各学年に年間目標冊数を設定し、読書活動を推進する。協働学習に必要な語彙力や表現力などの向上を図るとともに、文章を読み取ったり題意を理解したりする力を付けていく。

4 家庭学習の充実

全校で最低限取り組ませたいことの共通理解を図り、児童の発達段階に応じた家庭学習を工夫する。保護者の協力を得ながら継続して取り組ませることで、家庭学習の習慣化を図る。